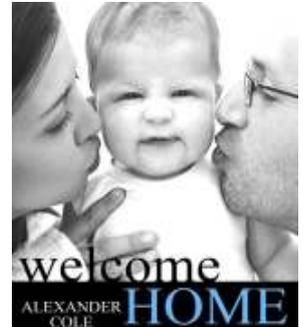


I. 導入

おはようございます。アレキサンダー・コールくんは、2010年12月1日、ロシアで生まれました。詳しい事情はわかりませんが、彼は血のつながった両親といっしょに暮らすことができず、養子に出されました。数ヵ月後、養子縁組を願っていたピーターとローラという夫婦がアレキサンダーくんを養子として迎えることに決めました。さまざまな手続きを経て、2011年9月13日、ついにアレキサンダーくんは、アメリカの新しい家に迎えられました。



多くの養子と同じように、心から子どもを願っている家庭にアレキサンダーくんは引き取られました。出生地や複雑な家庭の生まれであることにこだわらず、愛情をもって、アレキサンダーくんを新しい家庭に喜んで迎え入れた人がいるのです。

アメリカ合衆国では、毎年10万組以上の養子縁組が行われます。他にも、養子縁組が盛んな国もあります。どの養子も、新しい家庭に喜んで迎え入れられます。そこに、新しい兄弟姉妹がいる場合も多々あります。こういった子どもたちは、今まで行ったこともない新しい家庭に無条件で受け入れられ、歓迎されます。国際養子縁組の場合には、養子は新しい祖国と国籍も得ることになります。無条件の愛によって、新しい家族に迎え入れられる。新しい国籍。こう聞いて何かを連想しませんか。

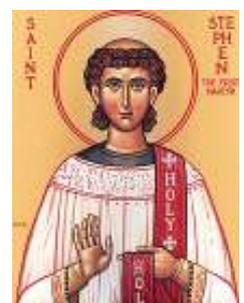


私たちがイエスを信じると、私たちは罪赦され、永遠の命を得ます。しかし、それだけではありません。私たちも、神の家族の一員として迎え入れられます。無数の兄弟姉妹がいる家族です。ヨハネ 1:12-13 はこう語ります。「1:12 しかし、言は、自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた。1:13 この人々は、血によってではなく、肉の欲によってではなく、人の欲によってでもなく、神によって生まれたのである。」イエスを受け入れて、心と人生にイエスをお迎えすると、私たちは神の家族に迎え入れられ、神の子とされます。

イエスを信じることで受ける祝福は、他にもあります。天の国籍をいただきます。アレキサンダーくんが新しい祖国を得たように、私たちも新しい国籍をいただきます。クリスチャンにとって、この世はもはや自分の国ではなくなり、真の故郷は天国になります。フィリピ 3:20 「3:20 しかし、わたしたちの本国は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、わたしたちは待っています。」

イエスを主であり救い主として信じたなら、あなたには天国の家があります。天の家に私たちはまだ行ったことがありません。それでも、私たちが天国に行くと、「おかえり」と迎えてもらえます。そして、永遠に主とともにいることができます。ヨハネ 14:2 でイエスが弟子たちに言われた言葉を覚えていますか。「わたしの父の家には住む所がたくさんある。もしなければ、あなたがたのために場所を用意しに行くと言ったであろうか。」私たちの主イエスは、神の子として迎えられた兄弟姉妹全員のために場所を用意してくださっています。それは、主の臨在と交わりを永遠に味わえる場所です。

天国に行けば、すばらしい先人たちに会うことができるでしょう。ステファノはその一人です。先週のメッセージで、教会の執事として最初に選ばれ



た7人のところを読んだ際に、彼の名が登場したのを覚えている人もいるでしょう。今日の聖書箇所では、ステファノが初代教会時代の最初の殉教者となり、主イエスによって天の家に迎え入れられたいきさつをともに見ていきます。

では、まず使徒言行録 6:8-15 を読みましょう。

II. 聖書朗読 使徒言行録 6:8-15 (新共同訳)

6:8 さて、ステファノは恵みと力に満ち、すばらしい不思議な業とするしを民衆の間で行っていた。 6:9 ところが、キレネとアレクサンドリアの出身者で、いわゆる「解放された奴隷の会堂」に属する人々、またキリキア州とアジア州出身の人々などのある者たちが立ち上がり、ステファノと議論した。 6:10 しかし、彼が知恵と“霊”とによって語るので、歯が立たなかった。 6:11 そこで、彼らは人々を唆して、「わたしたちは、あの男がモーセと神を冒瀆する言葉を吐くの聞いた」と言わせた。 6:12 また、民衆、長老たち、律法学者たちを扇動して、ステファノを襲って捕らえ、最高法院に引いて行った。 6:13 そして、偽証人を立てて、次のように訴えさせた。「この男は、この聖なる場所と律法をけなして、一向にやめようとしません。 6:14 わたしたちは、彼がこう言っているのを聞いています。『あのナザレの人イエスは、この場所を破壊し、モーセが我々に伝えた慣習を変えるだろう。』」 6:15 最高法院の席に着いていた者は皆、ステファノに注目したが、その顔はさながら天使の顔のように見えた。

III. 教え

先週学んだとおり、ステファノは日々の食事の分配の責任者として選ばれた7人の一人です。ですから、初代教会の最初の執事の一人とみなされています。この箇所から、ステファノは力強い説教者であり、奇跡を行う人であったこともわかります。しかし、すぐれた働きがなされているところでは必ずと言ってよいほど反発が起こります。主にリビヤのキレネとエジプトのアレキサンドリア出身のギリシャ語を話すユダヤ教徒で、いわゆる「解放された奴隷の会堂」に属する人々が、ステファノとの議論を公然とし始めました。



しかし、どうやらステファノは、公の議論でなんなく彼らを説き伏せたようです。10 節にはこうあります。「しかし、彼が知恵と“霊”とによって語るので、歯が立たなかった。」真理をしっかりと説明すれば、過ちより強力なのは当然です。この場合、公正な議論でステファノを論破することができなかつた人々は、嘘とまやかしによってステファノを負かそうとしました。根も葉もない噂を流し、ステファノを最高法院に引っ張っていったのです。使徒 6:13 にこうあります。「そして、偽証人を立てて、次のように訴えさせた。『この男は、この聖なる場所と律法をけなして、一向にやめようとしません。』」

最高法院は、すでにイエスに死刑を言い渡した人々の集まりです。また、ペトロと使徒たちを鞭で打たせるよう命じた人々でもあります。ですから、最高法院はステファノに同情的ではなかったでしょう。それでも、ステファノが彼らの前に引いてこられたとき、最高法院の者たちの心を打つ何かがありました。使徒 6:15 「最高法院の席に着いていた者は皆、ステファノに注目したが、その顔はさながら天使の顔のように見えた。」これはどういうことでしょうか。はっきりとはわかりませんが、ステファノが、このような状況に置かれても、平安、喜び、そして愛に満ちていたことが印象的だったのではないのでしょうか。考えてみてください。ステファノは、偽証によってぬれ衣をかぶせられ、彼に裁きを下す権威のある人々の前に立たされているのです。それでも彼は平安でした。

ここで、フィリピ4章が思い浮かびます。ステファノが最高法院の前に立たされたのは、使徒パウロがフィリピの教会に手紙を書く何年も前です。しかし、ステファノはすでにこれらのことを体得していたと考えられます。フィリピ4:4-7でパウロが何と言っているか見てみましょう。「4:4 主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい。 4:5 あなたがたの広い心がすべての人に知られるようになさい。主はすぐ近くにおられます。 4:6 どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。 4:7 そうすれば、あらゆる人知を超える神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスによって守るでしょう。」

この時点でステファノはまだ気づいていなかったかもしれませんが、彼はその日、クリスチャン初の殉教者となろうとしていました。しかし、誰かがステファノにあなたはもうすぐ死ぬのだと告げたとしても、きっと彼は気をもんだりしなかったでしょう。ステファノにはすでに「神の平和」がありました。この後、ステファノは最高法院に向かって語ります。その中で、ステファノはイスラエルの歴史をたどり、イスラエルの民が何度となく神に逆らってきたことを最高法院に改めて語りました。ステファノが語ったメッセージは、次回じっくり見ていきたいと思います。今日のところはその部分を飛ばして、ステファノがメッセージを語り終わった場面である使徒7:51-60から続けます。

IV. 聖書朗読 使徒言行録7:51-60 (新共同訳)

7:51 かたくなで、心と耳に割礼を受けていない人たち、あなたがたは、いつも聖霊に逆らっています。あなたがたの先祖が逆らったように、あなたがたもそうしているのです。7:52 いったい、あなたがたの先祖が迫害しなかった預言者が、一人でもいたでしょうか。彼らは、正しい方が来られることを預言した人々を殺しました。そして今や、あなたがたがその方を裏切る者、殺す者となった。7:53 天使たちを通して律法を受けた者なのに、それを守りませんでした。」7:54 人々はこれを聞いて激しく怒り、ステファノに向かって歯ぎしりした。7:55 ステファノは聖霊に満たされ、天を見つめ、神の栄光と神の右に立っておられるイエスとを見て、7:56 「天が開いて、人の子が神の右に立っておられるのが見える」と言った。7:57 人々は大声で叫びながら耳を手でふさぎ、ステファノ目がけて一斉に襲いかかり、7:58 都の外に引きずり出して石を投げ始めた。証人たちは、自分の着ている物をサウロという若者の足もとに置いた。7:59 人々が石を投げつけている間、ステファノは主に呼びかけて、「主イエスよ、わたしの霊をお受けください」と言った。7:60 それから、ひざまずいて、「主よ、この罪を彼らに負わせないでください」と大声で叫んだ。ステファノはこう言って、眠りについた。

V. 教え

旧約聖書の預言者のように、ステファノは最高法院の意に反して、そこにいた人々に真理を告げました。イエス・キリストを受け入れずに十字架につけたことから、最高法院の者が強情であったとわかります。神に逆らって預言者たちを殺した昔のイスラエルの王たちと同じほどの強情さ加減です。最高法院に対する非難を受け入れて悔い改めることはしませんでした。少なくともその日はそうしなかったのです。反対に、彼らは怒りに燃え、話に耳を貸そうとしませんでした。ステファノがもっとやんわり言えばよかったのではと思うかもしれませんが、必要に応じて、しもべが単刀直入に語るように主が導かれることもあります。



その日、最高法院とそこにいた他の人々は悔い改めませんでした。しかし、ステファノの言

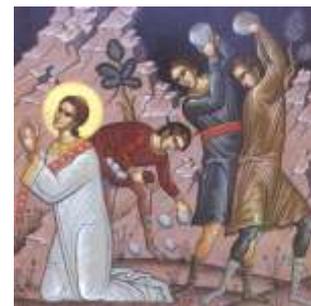
葉は後々までも彼らの心の中にこだまし続けたかもしれません。ステファノの厳しい言葉が、少なくとも何人かの人たちをついには悔い改めに導いたのではと思います。辛口の言葉は、後々まで影響を及ぼす可能性があるのですが、気をつけて使わなければなりません、それが良い方に作用する場合があります。

私が 19 歳のときのことで、その頃の私は、夜な夜な酒を飲んで飲酒運転をしていました。そして、スピード違反の切符を切られました。私は海軍にいましたが、その頃の海軍の規則では、若い海軍兵が交通違反の切符を切られると、上官に付き添われて軍のユニフォームで裁判所に行かなければなりませんでした。アレン二等軍曹がその日の私の付き添いとして選ばれました。裁判自体はいつも簡単に終わりました。私はスピード違反を認めて、罰金を支払いました。

けれども、行き帰りの車の中は非常につらい 45 分間でした。その頃の私は神のことにまったく興味がありませんでした。それよりもバカ騒ぎをしたり、他のことを考えたりするのに明け暮れていました。一方、アレン二等軍曹は熱烈な福音伝道者で、私にみっちり説教を聞かせました。その説教の中で、ある一言がその後ずっと私の心に留まりました。ここでその言葉をお分かちさせていただきます。私の罪を次々と挙げ連ねて、きつく叱りつけた後、彼はこう言いました。「君のような若者が地獄に落ちると思うと、心が痛むのだ。」その場では、その言葉を聞き入れられませんでした。しかし、彼のこの言葉を忘れることはありませんでした。彼に厳しく注意されたことは、後に主が私の心を開いてくださったいきさつの一端を担っています。



ステファノの厳しいメッセージも、その日最高法院にいた人々に同じような効果をもたらしたのではないのでしょうか。ステファノの言葉はきついものでしたが、彼の心は優しくなつたのです。ステファノは、自分の敵を愛していました。それはみことばの中に現れています。人々はステファノと議論しました。そして、ぬれ衣をかぶせました。彼を裁判にかけ、その天使のような顔から目を背けました。また彼のメッセージに耳をふさぎ、彼を引きずり出して、石打ちにしました。



このような暴挙にステファノはどう対応したでしょう。使徒 7:59-60「7:59 人々が石を投げつけている間、ステファノは主に呼びかけて、『主イエスよ、わたしの霊をお受けください』と言った。7:60 それから、ひざまずいて、『主よ、この罪を彼らに負わせないでください』と大声で叫んだ。ステファノはこう言って、眠りについた。」ステファノは信仰と愛をもって応じました。天の我が家に迎えていただけるという信仰、そして、自分の死に際しても敵のために祈る愛をもって応じたのです。十字架上でイエスご自身が示されたのと同じような姿勢で、ステファノが死を迎えたのは、驚くべきことです。



ルカ 23:46 は、こう語ります。「イエスは大声で叫ばれた。『父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。』こう言って息を引き取られた。」

また、ルカ 23:34 にはこうあります。「そのとき、イエスは言われた。『父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです。』」イエスは十字架上でご自身の敵のために祈られました。また、ステファノは自分を石打ちにしている人々のために祈りました。ステファノは神の恵みによって救いを得ていました。それは、イエス・キリストを信じる信仰によります。しかし、そこにそれ以上のものがあります。ステファノは、信仰の成長を遂げ、イエスに似た者とされていました。死に際して、ステファノは主キリスト・イエスと同じ態度を示したのです。



イエスとともに歩いていくなら、私たちもイエスに似た者とされていきます。聖霊が私たちを平安、喜びへと導いてくれます。また、愛に満ちて生き、どのような状況でも信仰をもって対応できるように導いてくれます。私たちが天国の我が家へ帰るとき、ステファノをはじめとする多くの先人たちとともに喜びを分かち合うでしょう。帰郷を盛大に祝うおかえりパーティーです。

VI. 結び

使徒7:55にこうあります。「**ステファノは聖霊に満たされ、天を見つめ、神の栄光と神の右に立っておられるイエスとを見て、**」聖書には、イエスが天で神の右に座しておられるとよく書かれています。しかし、神に愛された神の子ステファノが天に帰ろうという時に、イエスは立ち上がり、天が開けたので、ステファノがそれを見ることができました。ですから、ステファノは「おかえり」と天に迎え入れられ、その帰郷を祝ってもらえたことは確かでしょう。



私たちはどうでしょうか。殉教者になったとしても、寝ている間に死んだとしても、遅かれ早かれ、誰もが死に直面します。世間の多くの人々は、恐れや悔しさをもって死を迎えます。しかし、イエスに信仰をおく私たちは、どのような死に方であろうと、平安と喜びをもって死を迎えることができます。それは、天国に「おかえり」と迎えてもらえるわかっているからです。私たちはどのような生き方をすればよいのでしょうか。その答えは、私たちが天国の我が家に帰ったときに、主が「おかえり！」**「忠実な良い僕だ。よくやった。」**(マタイ 25:21a)と仰ってくださいような生き方です。



では祈りましょう。

VII. 祈り

愛する天の父よ、

あなたの愛は尽きることがなく、完全です。あなたの恵みあわれみは計り知れません。キリスト・イエスの十字架によって、私たちに救いをお与えくださってありがとうございます。私たちが罪を悔い改め、主に心を開いて救いを受けることができるよう助けてください。ここにおられるお一人お一人のためにお祈りします。また、そのご家族、ご友人、そしてご近所の方のためにもお祈りします。どうかキリストの平和を知ることができ、主の喜びに満たされますように。あなたを信頼し、あなたの聖霊によって歩むことができるよう助けてください。日々、知恵と力を与えてください。恵みにより、あなたのみこころにかなった生き方をすることができますように。そしていつの日か、あなたの御国の忠実で良いしもべとして、天の国に迎え入れられますように。あなたの聖なる御名をたたえます。イエスの尊い御名によって祈ります。アーメン。